

届け、誰かに

如月 達也

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

『フォックスくん！フォックス！…アーウィン イッタイドコヘキエテシマッタノダ… コーネリアヲマモツテクレ！』

ある日、コーネリア軍の最終兵器、チーム『スターフォックス』のリーダーであるフォックス・マクラウドがアステロイドにて謎の怪鳥に遭遇。その後、行方を眩ます。

その事件によりコーネリア軍の戦力は激減、壊滅に追い込まれる。

…
…
それから時空が遠く離れた先。アーウィンらしきものの残骸が発見され、その
機体には古い音声データが残されていた…

目次

”	『異次???	発見???’	—	—	1
”	『謎??	スロ????	マシンを発見???’		4
* 蛇、	縛?	蛭蝨	—	—	7

”
『異次???発見???』
???”

『こちらチームスターフォックス。我々はアステロイドでの任務中に謎の怪鳥に遭遇。先頭にいたリーダーであるフォックス・マクラウドがその怪鳥に接触。その瞬間、新たな次元へと移動した。．．．と、こう真面目に言っているが、実はコーネリア軍との通信が繋がらん。チームメンバーとのも同じく通信不調。なので今後のことも考えてこの次元のことを音声に残していこうと思う』

『改めてこの次元の発見時の情報を伝える。我々、スターフォックスチームはコーネリア軍の將軍、ペパーからの指令で宙域、アステロイドベルトでの任務を行っていた』

『その最中。我々は．．．そうだな、確か一際大きな灰色の惑星を破壊した時だろうか。前方にこちらへ向かってくる巨大な鳥の姿を発見した。取りあえずメンバーには散開するように指示をし、俺はその怪鳥へブラスターを打ち込んだのだが――

――怪鳥はブラスターをすり抜けてアーウィンに接触。フォックス・マクラウドの機体はその時に視界が真っ白になって何も見えない状態になった。恐らくその時に次元移動をしていたのだろう。そういえば．．．その時、誰かが俺に呼びかけていた気が

するな』

『視界が開けたとき。周りにチームの機体は無く、通信も繋がらない状態であった。というこで、この次元の情報を書いていこうと思う』

『この次元では五芒星型の惑星や大きな顔型の不気味な惑星がある上に、視界が非常に悪い。言葉に表すことは中々に難しいが……歪んでいる”って言えば解るか？視界が右へ左へとゆらゆら蠢いている。』

『そこでは“敵”と呼べる機体が存在していた。姿はな……薄っぺらい紙のようなものだ。それもアーウィン並みに大きい』

『何を言っているか解らないと思うが、コレは現実だ。目の前で薄っぺらい紙が組み立てられていって紙飛行機ができたときなんか驚いたよ。しかもその紙飛行機が変な軌道で襲ってくる』

『敵の戦闘力も大きい。下手したらそこらのアンドルフ軍の敵機よりもよっぽど強いかもしれない……笑えないな、こりや。この次元の出口だってわからないのに敵の強さがこれほどとは……』

『おお、何だこいつは。紙が別の折られ方をしていく！十字型だ！……といつても音声だけじゃわかりづらいか。詳しくは別に撮ってある映像を見せてくれ』

『さっき言った折り紙の軌道に加えて視界の酔いも合わさって中々しゃべりながらの迎

撃は難しくなってきた。一旦ここで録音を終了して、敵を倒すのに集中しようと思う。また何か特筆すべきものがあつたり、敵襲が落ち着いたりしたら記録を残すだろう。以上だ———』

添付画像・映像▼

「ファイルが壊れています」

もしてこないがアーウィンの前に立ちはだかるということはつまり敵だろう。やはり大きさはとてつもなくデカイ。詳細は撮ってある映像でわかると思うが、アーウィンの四倍以上の大きさはある。いったいなんなんだこいつは…。」

『マシンからの反応を確認した。スロットのハンドル部にブラスターを当てたところ、スロットの回転を確認。その少し後、リールが停止し、コインがマシンから排出された。どうやらこのコイン、エネルギーの塊のようで、アーウィンのシールド回復に利用できることが判明した。引き続きマシンの反応を確かめていきたいと思う』

『こちらフォックス！先程のスロットマシンが攻撃を仕掛けてきた！スロットを回していたところ、何故かは解らないがアンドルフの顔の面が出てきやがった！そいつが出た途端、マシンの排出口から攻撃が繰り出されてきた。とりあえず対処はできたが…何故異次元のスロットマシンにアンドルフの顔が存在する？まさかこの異次元にもアンドルフが行った実験が関わるっていうのか…？』

『とりあえず全ての絵をそろえてみようと思う。何も手がかりのないこの状態ではやれることもほぼ無いだろう。それにしても俺がこの次元に到着してからどれくらいの時

がたつたのだろうか。チームの皆はどうしているんだ……』

『殆ど全ての絵がそろった。あとは7が揃えば全て揃うことになるが……コレまでの結果から解ったこととして、どうやらコイツはアンドルフの絵が出たときのみに攻撃を仕掛けてくるらしい。それ以外の場合はこの組み合わせであろうとコインが排出された。恐らく7が揃えば何か起きるのだとは思うが……嫌な予感といえはいいのだろうか。自分が何か取り返しのつかないことになっているんじゃないかと感じてきた。まあアーウインの備蓄もまだ余裕がある。気が狂わない程度にスロットを楽しんでいこうか——』

添付画像?????像▼

「ファイルが壊れて?????
?????す」

* 蛭、纏? 浹螢一 險倬嶮

『…こちらチームスターフォックスリーダー、フォックス・網械ラウドだ』

『この記録を聞いている者がいるとすれば前回の記録から大きく時間が空いていることに疑問を抱くだろう。その記録からわかる通り、俺はこの次元にて巨大なスロットマシンと遭遇、調査によりこいつがアンドルフと関係している可能性が発覚。その後、更に調査を続けるために全ての絵柄をスロットで揃えようと試みた』

『試みてしまったんだ』

『ああ、前回の記録でも言っているように殆ど全ての絵は揃えてもコインを吐き出すだけだった。——しかしだ』

『7だ。7を3つ揃えた時、この纏才纏、纏「纏ッな次元に…！」』

『…7が3つ揃った時だ。ヤツはコインを大量にばら撒いて消滅した…。そして同時に』

『——空間の歪みが止まった』

『その時はただスロットによって起こっていたこの次元の異変が収まっただけだと思っただけだ。今思うとアレはこの次元と俺がいた次元の道が完全に途絶えてしまっ

たということなのかもしれない』

『空間の歪みが止まった後の話だ。闇ア隠？の文字が降ってきたんだ。一体何を、と思うかもしれないが、事実だ。写真も撮ってある』

『当たっても特に機体へのダメージは無かったが、一応近付いてきた文字を避けるように進んでいたんだが……その文字が誰かの名前のように並んでいた。——HIROSHI YAMACHI……だったか。そんなライラット系では聞かない名前がいくつも降ってきたんだ』

『……しばらくの間、その名前の大群が迫ってきた。それからだ。前方にTHE ENDの文字が現れたのは』

『最初は文字の向きもバラバラで、灰色の文字だった』

『しかし、ブラスターで攻撃したときに大きく文字が弾かれ、向きが変わったこと、攻撃により正しい向きになった文字の色が橙色に変化することを確認した』

『その最中、いきなり敵対機が現れたために少々難航したが、最終的にTHE ENDの文字を完成させた』

『————させた時だ。その譁？ユ？全てが同時に弾かれて、戻ってきたときには全ての文字の向きがバラバラだった』

『途轍もない嫌な予感が襲った。視界に広がるのは先程とはうって変わって動きを見せて

なくなつた空間にたたずむTHE ENDの文字』

『それから何度も文字を揃えたんだ! 何度も何度も何度も!』

『:. . . だが、文字は再び弾かれて綱舌△綱舌△に向きが変わるだけだった』

『:. . . そして今に至るといふわけだ。正直もう前回の音声記録からどれくらい経つたのかも解らない』

『1年か? 2年か?:. . . いや、まだ数ヶ月しか経つてないのかもしれない』

『アーウィンに残っている備蓄もあと僅かだ。持つてあと数日だろう』

『ああ、ファルコ、スリッピー、ペッピー:. . . すまない』

『ペパー將軍、申し訳ありません』

『——もし、もしもだ。この音声記録を聞いているヤツが縫? k 縫ヨなら——』

『——絶対に怪鳥には近付くな。俺のようになってはいけない』

『：： そういえば、以前纏？パー將軍から聞いた話で纏？せ纏ウ・コバーという軍曹が行方不明になったというのを聞いたな。：：』

『：： 何かと遭遇し、通信が驟皮オカ纏医◆と聞纏？たが：： なんだったか』

『たし纏？』

—— 阿あ、諤エ纏・纏？

豺サ莉倡判蜒擾ソス??ス?蜒? ▼

〔網輔い縵、網才縫悟〕
翫一縫ヲ? ス?? ス? ス縫?〕